歴史地震
第 25 号(2010) 124 頁

［講演要旨］関東大震災における米神・根府川（神奈川県足柄下郡片浦村）の被害総数

○武村雅之（鹿島小堀研究室）

関東大震災における根府川・米神での土砂災害については、２件の列車遭難と２件の山津波による被害があるが、それらが互いに混同されてとり扱われたり、また事件を混同しないまでも、様々な被害数で語られている。何が真実かを完全に調査することは難しいが、明らかな間違いをただし、資料の原典にできるだけ当たることで、確からしい数値を推し量ることは可能である。できるだけ多くの資料にあたり、現地調査も行って４つの土砂災害の被害数を再調査した。

その結果、現時点で確からしい数字は以下のとおりである。根府川駅での下り 109 列車（機関車＋客車 8 輌）の遭難の犠牲者は 131 名、その内訳は列車の乗客 105 名、ホームにいた旅客 20 名、列車ならびに駅の職員 6 名。寒目山隋道での上り 116 列車（機関車＋客車 6 輌）の犠牲者は鉄道職員 6 名と乗客若干名(2 名以上)。根府川集落での山津波による被害は、埋没戸数 64 ないし 67 戸（このうち一家全滅は 15 戸程度)、この外に駅付近での埋没 11 戸がある。犠牲者は 289 名でそのうち海岸で行方不明になった児童は約 20 名。米神集落の山津波による被害は埋没戸数 21 戸で死者 66 名、そのうち住民の死者は 62 ないし 63 名で他は鉄道職員などである。もちろんこれらの数値が絶対とは言い切れないが、少なくとも被害の規模を大幅に見誤っていることはないと思う。

以上の結論に至る過程で調査した各文献に書かれていた記録を以下にまとめて示す。

文献	根府川駅での下り列車遭難					寒ノ目山隋道での上り列車遭難		根府川集落の山津波					米神集落での山津波			
	乗客数	駅・ホームの人	死者	生き残り	状況(車輌数等)	死者	状況など	戸数	人口	埋没戸数	死者	海岸の児童数	戸数	人口	埋没戸数	死者
『大正震災志』(1926)								30			80内外				30	50余
『神奈川県震災誌』(1927)								30			80内外	72(在学児童の半数)			30	50余
西坂勝人『神奈川県下の大震火災と警察』(1926)(神奈川県警察部『大正大震火災誌』でも同じ)	約200	約40		40	7輌連結 機関車1輌は渚、他6輌は海中	機関手・火夫惨死、乗客無事	隋道口崩壊、機関車の大部分埋没	123	858	64うち一家全滅15	406	20(2,3名以外行方不明)	101	789	21	62
小田原警察署管内震災状況誌(1923)(かっこ内は記載された別の数値)	約200(300)	約40	180余(海嘯で浚われる)	約40(30)	7輌連結 機関車1輌は渚、他6輌は海中	機関手・火夫惨死、乗客無事	隋道口崩壊、機関車の大部分埋没			64うち一家全滅11(80有6)	数百	5,60(2,3名以外行方不明)			21	
土木学会 大正十二年関東大地震震害調査報告(1927)			旅客105 職員6 合計111		機関車1輌、客車8輌脱線転覆	職員6名即死	機関車1輌脱線転覆									
鉄道省 国有鉄道震災誌(1927)	約150	旅客約20不明 駅員：1無事 3死亡	乗務員及び旅客合計111 機関助手、見習車掌死亡(120列車見習車掌も)(収容遺体わずかに5)	旅客約30、ほか13汽船に救助 機関手、前部・後部車掌生存(120列車前部・後部車掌も)	機関車1輌、客車8輌のうち後部客車2輌が連結器切断して海岸に残留 (前部車掌の体験談掲載)	機関車の乗務員2行方不明。職員合計6名生死不明 (1年後職員4名、旅客2名の死体発見)	客車6輌隧道内で無事 真鶴方面へ旅客を誘導。隧道外へ出た時不意の山崩れで職員2名、旅客若干名が行方不明	約100		約80埋没	約390					
今村明恒(1933)『地震』第5巻			旅客105 職員6 合計111		(機関手の体験談掲載)	山津波で職員6名死亡、乗客無事	(別説)根府川側へ出た人達は山津波で死亡	80	650	60	293					
石田重光(1988)(かっこ内は『根府川駅史』による)	約200(150)	約40(20) 駅員：1無事 他死亡		40	機関車及び客車8輌のうち最後部客車2輌が海岸に残留(根府川駅史)	機関士と助手惨死、乗客無事。翌年、旅客2、鉄道職員4の遺体発見、計8名死亡確認(根府川駅史)	真鶴方面へ引き返す人もあり、再度の山崩れで何人か行方不明(根府川駅史)	123	858	64うち一家全滅15	406		101	789	21	62
横山正明(1996)(かっこ内は『根府川駅史』による)	約200(150)	約40(20)		40余	7輌編成でうち先頭部分が海岸	機関士と火夫が犠牲、乗客無事	出口で機関車が崩壊土砂に埋没	123	858	64うち一家全滅15	406	72(2,3名以外行方不明)	101	789	20(うちミズカブラ地区13)	66(ミズカブラ地区42、鉄道下21計63)
内田一正(2000)		駅ホーム22不明	列車109(合計131)	数十	機関車と列車2輌は海岸、後部3輌は海中	大方はトンネル内で無事	山津波で埋没	159		78(駅付近11戸)	289					
井上公夫(2008)『地図に見る関東大震災』図録			200							64	406	20			21	62

参考文献
武村雅之著『未曾有の大災害と地震学－関東大震災』シリーズ 繰り返す自然災害を知る・防ぐ、古今書院、2009 年 9 月